

## 日本赤十字社への寄付金について

編集部



今回、今年4月ごろ、協力会社様へ消毒用アルコールを提供し、代金の代わりとしていただいた

寄付金¥ 9, 664. -

左の写真の通り、社内の募金箱にいたいた

寄付金¥ 10, 336. -

合計¥ 20, 000. -を寄付いたしました。

今回は、「**コロナウイルス感染症の医療従事者支援**」を目的に、クルーズ船や帰国者チャーター便に医療チームを派遣し、赤十字病院での感染者の受入、蔓延防止に取り組んでいる

**「日本赤十字社東京都支部」**に寄付することと

いたしました。

協力会社の方々、社内有志の方々、ご協力、ありがとうございました。

以上

本件をご翻訳いただき誠にありがとうございます。

本件は不要不急の外出を避けるもので、赤十字へのご支援を強制するものではありません。  
コロナウイルスの状況を状況のうえ、ご無理のない時期や範囲でご協力をいただけたら幸いに存じます。

各 一 次



日本赤十字社東京都支部  
事務局長 村原泰一郎

新型コロナウイルスに関するお知らせ  
および兼子活動資金へのご協力のお願い

平素から、日本赤十字社にご協力いただき、心から御礼を申し上げます。該協会の「コロナウイルスの撲滅」の使命と同様に、自らの命を犠牲にして、多くの命を救う活動を行ってきました。日々の感染拡大の状況などで大きな社会的影響を受けた結果、今まで自ら収容室の派遣が飛び出し、多忙な業務が重なり、負担が増加する中、依然として活動を続けています。

また、本件のウイルスの発生が人々を一層警戒し、社会では「口に食えない」といわれる影響で、不安や誤解が大きくなっています。感染拡大防止のためには、手洗い・うがい・換気・マスク・入り口の消毒などの対策が重要ですが、病気を恐れる心が「手を今届けよう」と奮闘する人々を阻んでしまうこともあります。(神奈川県はこの間、手洗い普及運動を実施しています)

日本赤十字社は、東南アジアからクルーズ船や中国武漢市からの帰国者チャーター便などに所持品一昧を剥落し、現地も赤十字会院で感染者を受け入れ、金をぜる新幹線で日本にコロナウイルスの蔓延防止に尽力しております。

また、感染拡大の影響で来山者が減少する中、患者までの直面率を確保することも医療の運営にとって重要です。若しくはいる人々を救うため、日本赤十字社資金や募金への協力を何卒お願い申します。

なお、日本赤十字社の下見には、外出予定でご協力いただけるフレンドカード寄付方法もご検討ください。支那ではございませんが、皆さまのご賛同を心からお祈り申し上げます。

振替用送金用紙受領証(振込用紙用印面)

00160-44132621	
日本赤十字社東京都支部	
本 金	￥ 20,000.
支 手	現 金
被 手 人 氏 名	（記入欄）
郵 便 号	（記入欄）
免	（記入欄）

本件の旨の印字された裏面に、被手人氏名や郵便番号等の記入欄があります。

ここに 03-3272-8149 [振込用紙用印面]

ウチヤの皆さん 資金支援 ありがとうございます

あ陰様と元気になります。

今後はコロナ禍に対応支援活動にご協力下さい。

2020年7月15日  
(賞与支給日)

前回（2020年3月）の募金は、オーストラリアで森林火災からの復旧に役立てられました。